

学生の漢文作品に対する意識について

国語教育専修・太田亨

1、授業の概観

本授業は四年次に行う授業である。漢文の授業をどのようにすればよいか、深い読解とそれを教授する方法を理解することが目的である。そのため作品研究と教授の要点を教授することが中心である。

学生は次年度より教壇に立つことになる。とはいえ、教員採用試験を控えた時期である。そこで、授業の題材で扱ったのは、中・高等学校の漢文の授業で用いる故事成語、散文作品である。それらの作品の真意をいかに読みとり、他者へ伝えていくか、考察・探究した。

上記の目的を達するために、学生には次に挙げる三つの到達目標を課した。

- ①日本人が学んできた中国文学作品の概要を理解する。
- ②日中の辞書を使いこなし、丁寧に読み解くことができるようになる。作品の真意を他者に伝達できるようになる。
- ③中国文学に深い関心を持つ。

取り上げる作品については、故事成語と散文のジャンルから適宜選んだ。受講者にはまず作品を配布し、各自で読解してもらった。その際にテスト形式にして、きちんと問題が解けるか、読解力を試した。各自作品を読解した後、その作品の解説を行い、相互で話し合っただけで理解を深めた。理解が深まったところで、今度はそれをどのように他者に解説するか話し合い、疑問点が出ると教員がその解説を行った。

2、学生アンケート及び結果

授業後、アンケートを行った。これから、アンケートの質問事項とその結果を示す。

まずは授業の概要について、9項目のアンケートを行った。以下、その項目と結果である。回答者は4名である。②～⑥について、アンケート用紙には、マイナス要素を含む選択肢も当然あるが、0名の場合は省略した。

- ①、シラバスの説明（授業の概要）はありましたか。（あった：4名 なかった：0名）
- ②、授業における教員の態度（熱意や言動や学生に対する対応等）は適切でしたか。（大変適切だ

った：2名 まあまあ適切だった：2名 ふつう：0名）

③、授業には興味を持って臨むことができましたか。（臨むことができました：2名 まあまあできた：2名）

④、学校で取り上げられる漢文教材の理解を深めることができましたか。（かなりできた：0名 まあまあできた：4名 ふつう：0名）

⑤、漢文訓読に慣れましたか。（大変慣れた：1名 まあまあ慣れた：3名 ふつう：0名）

⑥、漢文に対する興味は深まりましたか。（深まった：2名 少し深まった：2名）

⑦、授業で取り扱った作品を読解する上で、あなたが考えたこと・思ったことを自由に書いてください。

・言われると分かるが、始めて読む場合、思い違いをすると、最後まで分からない。

・故事成語は、話の背景を知っておかなければいけないと思った。それぞれの故事成語に背景があるため、知っておいた方が面白い。

・堅い作品は理解するのが難しい。見たことの無い漢字が出てくるとパニックになる。

・漢文の作品は役に立つ内容のものが多く、読みが良かったです。

・思った以上に読むのが困難だと分かった。実際に現場に出た場合は大変だと思った。

⑧、漢文作品を他者に教える場合について、あなたが考えたこと。思ったことを教えてください。

・自分が中学校・高校で受けてきた漢文の授業では、書き下し文にしたり現代語訳することばかりだったので、作品を深く読むことがどれほど重要か分かった。

・教員がしっかり作品を読んでおかなければ、生徒には指導できないと思った。

・授業を組み立てるには、とにかく学習のねらいをしっかりとっておくことが重要だと思った。そのためにはしっかり作品を読み込んでおかなければいけないと思った。

・自分にはできないと思った。

・来年度教えることになればよいが、漢文を教えるということは初めて深く考えた。書き下し文と現代語訳だけでは、作品の良さを伝えることはできないと思った。

・自分は生徒に教えることはないが、他人に作品の内容を教えることは、意外に難しいと思った。

⑨、授業について、あなたの意見・感想を自由に書いてください。

・教員採用試験の練習になったので、授業を受けてよかった。

・実習があったので、受けたり受けなかったりでした。全部受けたかったです。

・作品の歴史と奥深さを理解できてよかった。孟母三遷が面白かった。

・もっとたくさんの作品を読みたかった。

・作品読解のほかに授業の組み立てなど考えることができ、新しい発見が多く楽しかった。

・漢文について知らないことが多すぎることが分かった。これから漢文に関する本や漫画を読んでおこうと思った。

・教員採用試験があったので、なかなか授業に集中できなかった。

・教員採用試験の問題についてのアドバイスがありがたかったです。

・教員採用試験の対策ができて、大変良かった。

3 アンケート結果について

①～⑤の結果を見ると、教員の対応や授業の進行については、それほど不満はなかったと思われる。

⑦の回答を見ると、やはり取り扱った作品の難易度が少し高かったように思われる。中盤の授業から、最初の読解時に辞書を見ても構わないようにしたのだが、なかなか簡単には理解できなかったようである。ただ、取り扱った作品が将来教材となる可能性があることから、作品に興味を持った様子が窺えた。

⑧の意見・感想を見ると、来年から教員となって漢文を教えることに不安を覚えている様子が窺える。⑦の質問事項との繋がりで見ると、この授業では、漢文作品を読むことがいかに難しいか、そしてそれを他者に伝えることがいかに困難であるかを実感してもらうことを第一の目的としている。学生の意見と感想を見れば、その目的についてはおおよそ達成したように思われる。

⑨の感想を見ると、4年次前期に開講していることが深く影響していると思われる。漢文の作品

読解・授業の組み立てに興味を持つ一方で、教員採用試験に関する感想が非常に多い。7月に教員採用試験があるため頭の中はそのことでいっぱいだったようである。ただし、漢文の教材研究の大変さを実感してくれた意見も多く、今後の取り組みに影響することを願っている。教員採用試験のためだけの授業を行うことは出来ないが、授業外になるべく対策の時間を設けることは必要だといえよう。

まとめ

中学校・高校で受けてきた漢文授業が受験対策のために書き下し文に改めたり、現代語訳にする作業ばかりで、漢文をいかに教えるか真剣に悩んだことのある学生は殆どいない。本授業は漢文の授業としては最後の授業となるため、深い作品読解と授業をいかに組み立てるかについて、学生と共に考察した。漢文については、当然のことながら現場に出てから教材研究、指導案作製に苦勞することになる。その際にそれらがどれほど大変かを知っておく必要がある。本授業ではその一端を伝えることはできたのではないかと思う。

開講時期が採用試験の前であることから、受講学生は少ない。しかし、その分個人個人と議論し合ったり、一緒に考えることが可能である。授業の中に漢文のテストの要素も盛り込んだのは学生にとってはよかったのではないかと思う。漢文作品の読解及び考察、教員採用試験に向けた漢文作品の読解等、一年後に教壇に立つ学生の意に適った授業を行っていきたいと考えている。